

2つの大会で活躍光る



ボート部員の皆さん。左下から藤田悠雅君(2年)、田畑真君(同)、中屋絢介君(同)、山寄大成君(同)、佐藤翼君(1年)、左上から昆彪袈君(1年)、佐々木友希君(2年)

東北総合体育大会で中屋君が準優勝 県新人ボート大会は2種目で県制覇

山田高校ボート部が2つの大会で見事な活躍ぶりを見せました。7月30日、31日に宮城県長沼ボート場で開かれた第48回東北総合体育大会ボート競技会では、男子シングルスカルで中屋絢介君(2年)が準優勝を飾りました。この戦績で出場権を手にした「三重とこわか国体」は、残念ながら新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で中止が決まっています。その後、8月27日から29日にかけて花巻市田瀬湖ボートコースで開かれた第53回岩手県高等学校新人ボート大会では、男子シングルスカルと男子ダブルスカル2種目で優勝を飾り県制覇を果たしました。男子シングルスカルの決勝では全出場枠を同部員が占め、上位を独占する大健闘です。

入賞選手にインタビュー

男子シングルスカル

東北総合体育大会・準優勝
県新人ボート大会・優勝

中屋 絢介君(2年)



第48回東北総合体育大会で初めて東北の強豪らと競った中屋君。

「優勝選手とは12秒の差で実力の差を感じました。負けたことよりも自分らしい漕ぎができなかったことが残念です」と振り返り、県新人ボート大会の優勝も「今の力では東北や全国大会を勝ち進めません。もっと持久力をつけて次の大会に臨みます」と、さらなるレベルアップを目指します。

男子ダブルスカル

県新人ボート大会・優勝

【左】藤田 悠雅君(2年)

【右】田畑 真君(2年)



第53回岩手県高等学校新人ボート大会で優勝を果たした田畑君と藤田君。「先輩方が優勝してきているのでプレッシャーがありました」と、田畑君はホッとした表情です。2人が目指すのは東北大会の予選突破に必要な「3分25秒を切ること」。藤田君は「水上と陸上でのトレーニングで持久力をつけたいです」と意欲を燃やし、田畑君は「身長差をカバーする長さや強さのある漕ぎを極めたいです」と力を込めます。

男子シングルスカル

県新人ボート大会・準優勝

山寄 大成君(2年)



「ペース配分を間違えました」と悔しさをにじませる山寄君は、3位の佐藤君(1年)に0.17秒の僅差でゴール。前半でリードされていたものの、後半で追いつけ逃げ切りました。今後は「足と腕の筋肉を鍛え、優勝を狙えるタイムを目指します」と目標を掲げます。

男子シングルスカル

県新人ボート大会・3位

佐藤 翼君(1年)



「練習の成果を出せて嬉しかったです」と笑顔を見せるのは、3位に入賞した佐藤君。厳しい合宿を乗り越え、自分なりの漕ぎ方を身に付けてきました。「実力のある先輩たちを目標に、体づくりをしていきたいです」と先輩の背中を追いかけています。

町長室から

セミの声が静かになってくると虫の音が少しずつ大きくなる。「小さい秋」が至る所に顔を出す。私はこの時期が1年の中で最も好きな季節である。とは言うもの町長という立場上、このような感慨にばかりふけているわけにもいかない。秋は豊穣の季節であることから、今年のお米の出来はどうだろうか、マツタケは昨年のように大豊作となるのだろうか、秋サケは昨年よりもたくさん帰ってくるのだろうか、いろいろなことが気に掛かる。加えて、台風が頻発する時期でもあり、自然災害への心配も尽きない。本町では、お医者様はじめ医療関係者のご協力で新型コロナウイルスのワクチン接種が早く進んだが、これから冬になるにつれて感染状況がどうなるのかも心配である。考え出すと切りがないが、時々秋の風情を楽しめるような心のゆとりだけは持たいたいものである。

山田町長 佐藤 信逸